

Photo

島根半島の海岸に生息する甲虫類 (4) カラカネハマベエンマムシ

林 成多

ホシザキグリーン財団, 〒691-0076 島根県出雲市園町沖の島 1659-5

カラカネハマベエンマムシ *Hypocaccus lewisii* (Schmidt) は、体長 2.3-3.2 mm ほどのエンマムシ科に属する海岸性甲虫である (大原, 2004)。北日本に多い種で、本州から九州では日本海側に分布している (大原, 2004)。西日本では、これまであまり記録がなかったが、河上・林 (2007) により島根半島の日本海に面した砂浜に生息していることが報告された。



写真 砂の上を歩くカラカネハマベエンマムシ

2006年3月15日13時21分, 出雲市大社町稲佐浜の海岸にて撮影。本種は日中、漂着した海藻の下に潜んでいることが多い。撮影した個体も海藻下より掘り出したもの。地表に出るとすぐに砂の中にもぐろうとする様子が観察された。神戸川河口, 稲佐浜, 弓ヶ浜で生息が確認されたが、個体数はいずれの場所でも少なく、出現時期も3月から5月に限られていた。色彩変異があり、美しいエンマムシである。

[文献] 河上康子・林 成多 (2007) 日本海沿岸の海岸性甲虫類の研究 (2) 島根半島。ホシザキグリーン財団研究報告, (10)。印刷中。

大原昌宏 (2004) 海浜性エンマムシ。昆虫と自然, 39(12): 12-15。